

点検及び修繕の方針【共通事項】

【新技術等の活用】

点検や修繕の維持管理を実施するにあたり、点検や修繕の効率化とコストの削減を目的として、「NETIS（新技術情報提供システム）」などに登録されている、推進高解像度カメラや赤外線カメラなど「点検支援技術性能カタログ（案）国土交通省」に掲載されている新技術について、修繕における新材料や新工法の選定において活用に努めます。

【集約・再編・撤去】

橋梁等について、定期点検や日常点検により通行の危険性が確認された場合、近接橋により代替可能（迂回）であるか否か、また、道路環境の変化（整備）、あるいは、河川等の改修の際には、将来残すべき橋であるかを検討し、地域住民の合意が得られた場合は、集約・再編・撤去到に努めます。

【予防保全の取組みによるコスト縮減】

・健全性（判定区分）の向上

定期的な点検を実施し、現状を把握しながら適切な修繕工事を計画的に実施することで、橋梁を保全し道路ネットワークの信頼性を確保します。

・維持管理コスト（ハード対策）の縮減

対症療法から予防保全へ転換することで、効果的な維持管理が実現され、維持管理コストの縮減を図ります。

・予算の平準化

修繕に係わる費用について、橋梁点検による状態評価の情報を蓄積し劣化を予測して、予算の平準化を図った修繕計画を策定することで、計画的な修繕を可能とします。

《具体的検討事項》

・点検コストの軽減と安全性の両立

橋長が短く構造が単純な橋梁かつ使用者の限定される橋梁等については、市職員自らによる点検技術の向上を図り、コストと安全を両立した点検を検討します。（10年サイクル点検（案）→ 5年毎（市職員）、10年毎（委託））

・更新における将来の維持管理コストの縮減をします。

点検結果により更新の必要な橋梁は、可能な限りボックスカルバート等のプレキャスト製品を採用し、現場作業の省力化と作業工程の短縮により作業効率を図るとともに維持管理の省力化を考慮しコストの縮減を検討します。

また、事情により撤去・架替えが困難な橋梁については、車道橋から歩道橋へと変更するなど、機能を縮小することを検討します。

・点検結果と将来的な維持管理費縮減検討

定期点検においては、損傷レベル判定（症状の進行）を時点ごと考察し、対応方法を検討し、また、経過観察にある橋などは損傷進行などの情報を得て、合理的な維持管理と費用対効果を検討し、集約・再編・撤去が必要な場合には、地域住民への説明と同意（インフォームド・コンセント）を図るよう努めます。

日常点検においては、損傷を早期に発見し、早期に対処し安全を確保するとともに、延命化と維持管理コストの縮減を図ります。

定期点検による状態評価と、日常点検による損傷状況の情報を蓄積し劣化予測を行い、計画的・効率的な維持管理を推進します。